

第21回年金広報検討会資料

東京都立蒲田高等学校 浅川 貴広

〔アンケート実施概要〕

(実施期間)

7月15日(日)～24日(木)

(回答者属性)

公立、私立高校教員(公民科) 34名

内訳:都立高校教員23名、都内私立高校1名、
都外公立高校5名、都外私立高校5名

(回答者経験年数)

1～5年 6名、6～10年 6名、11～15年 10名

16～20年 3名、20年以上 9名

第21回年金広報検討会
令和7年7月30日(水)

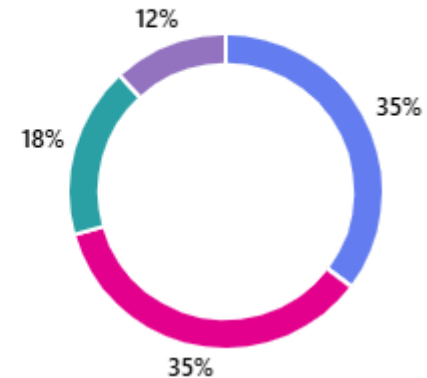
資料4-1

1 アンケートの集計結果及び分析



3. 「公共」の授業において、社会保障制度について年間で扱う時間は何時間程度ですか。

● 2 時間以下	12
● 3 時間	12
● 4 時間	6
● 5 時間以上	4



【集計結果の分析】

約4分の3の学校において、社会保障の単元に関して**年間で3時間以下の割り当て**しかできないことが明らかになった（過去の調査とほぼ同様）。

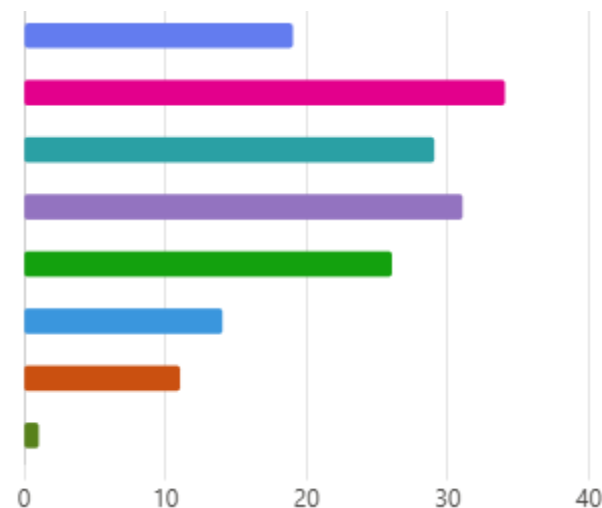
➡文部科学省は、大項目Bに50時間配当を想定しており、13テーマを扱う中では**最大でも4時間程度が限界**。

I アンケートの集計結果及び分析



4.「公共」の授業において、社会保障制度に関して扱う内容を**すべて選択**してください。選択肢以外で扱う内容があれば、「その他」の欄を選択し、ご記入ください。

● 社会保障制度の歴史	19
● 日本の社会保障制度（社会保険や公的扶助などの制度の概要）	34
● 日本の年金制度（賦課方式、「二階建て」の仕組みなど）	29
● 日本の社会保障制度の課題（少子高齢化、財源の問題など）	31
● 今後の社会保障制度の在り方（「高福祉・高負担」、「低福祉・低負担」の比較など）	26
● 「自助」の考え方を踏まえた、今後の人生における個人の「備え」について（民間保険や確定拠出型年金など）	14
● ノーマライゼーションなどバリアフリー社会の実現	11
● その他	1



【集計結果の分析】

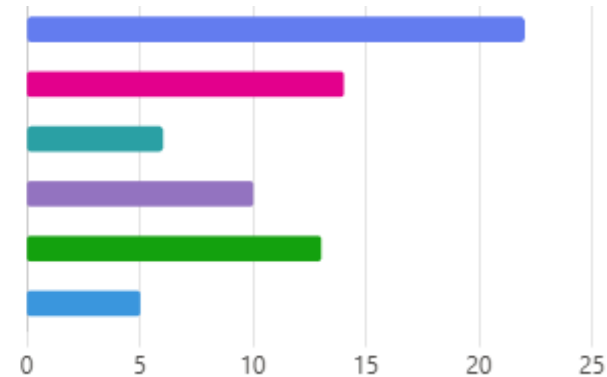
- ・社会保障制度、年金制度と今後の課題はほぼすべての学校で扱い、学習指導要領で触れられている「高福祉・高負担」と「低福祉・低負担」の比較も多くの学校で実施。
 - ・個人の備えについては半分以下の取組となっており、**公民科では制度面が中心の実態**が改めて浮き彫りとなった。
- ➡扱う内容は制度のみという回答も散見された。

I アンケートの集計結果及び分析



5. 「公共」の授業で社会保障制度を扱う中で、「課題」と感じている内容をすべて選択してください。選択肢以外で該当する内容があれば、「その他」の欄を選択し、ご記入ください。

● 学習内容に対して、扱う時間数が不足している。	22
● 学習内容に関する授業者側の知識が不足している。	14
● 社会保障制度を生徒にわかりやすく理解させるための教材や情報サイトなどが不足している。	6
● 社会保障制度の現状や、年金制度の今後の見通しに関する情報を入手しづらい（もしくは入手方法がわか...	10
● 社会保障における「自助（＝個人での「備え」）」について、（家庭科との住み分けなどにより）どこまで扱うべ...	13
● その他	5



【集計結果の分析】

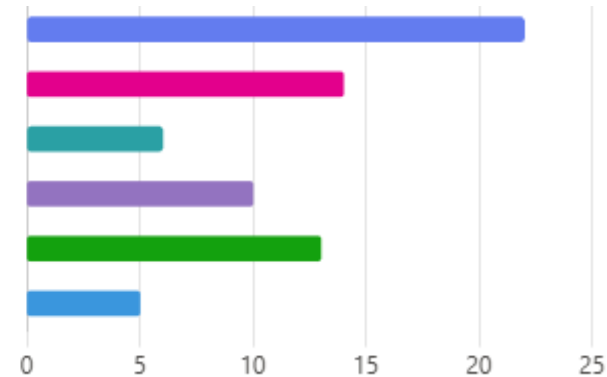
- ・授業時数の不足は全体の約4分の3が課題としている。
- ・授業者側の知識不足も約4割が課題とし、情報入手の難しさも約3割が課題としている。
- ➡教員が授業を行う際に「年金」の現状に対する正確な情報へのアクセスが課題となっている。
- ・家庭科との住み分けについては、公民科教員だけでなく家庭科教員も課題と認識していることが想定される。

I アンケートの集計結果及び分析



5. 「公共」の授業で社会保障制度を扱う中で、「課題」と感じている内容をすべて選択してください。選択肢以外で該当する内容があれば、「その他」の欄を選択し、ご記入ください。

● 学習内容に対して、扱う時間数が不足している。	22
● 学習内容に関する授業者側の知識が不足している。	14
● 社会保障制度を生徒にわかりやすく理解させるための教材や情報サイトなどが不足している。	6
● 社会保障制度の現状や、年金制度の今後の見通しに関する情報を入手しづらい（もしくは入手方法がわか...	10
● 社会保障における「自助（＝個人での「備え」）」について、（家庭科との住み分けなどにより）どこまで扱うべ...	13
● その他	5



【「その他」の回答】

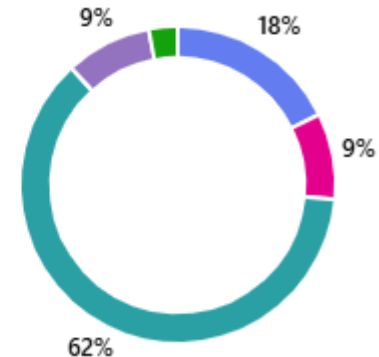
- ・今後支出が増大する社会保障制度を維持させるためには原則的に負担を増やさざるを得ないはずだが、それを生徒に理解させるのが難しい。消費税は減税すべきなど**安易な考えに流されやすい**。
- ・どう工夫しても**面白く楽しい授業にならない**。
- ・度々制度が変わり、情報を追って生徒に伝えるのが大変。特に厚生年金加入要件などは卒業後すぐにかかわることなので正しい情報をピックアップして取り上げたいが、**情報が分かりやすく整理されておらず、教えるのが難しい**。
- ・社会保険に偏り過ぎている。**社会福祉などが軽く扱われている**。

アンケートの集計結果及び分析



6. 厚生労働省が運営する「公的年金シミュレーター（※リンク先参照）」を授業で利用したことがありますか。

● 今までに利用したことがある。	6
● 利用したことはないが、（今年度内に）利用する予定である。	3
● 利用したことはなく、現時点で利用予定はないが、今後利用を検討したい。	21
● 利用したこともなく、今後の利用の予定もない。	3
● その他	1



【「公的年金シミュレーター」に対するご意見や、利用してのご要望】

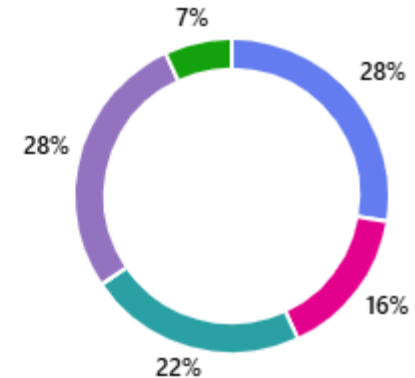
- ・今後利用を検討していきたい。
- ・CSVで出力されるのが、生徒には扱いづらい。働いていない人（高校生など）の試算がしにくい。
- ・シミュレーターなので実績に基づく試算しかできないのはわかるがこの考え方だと往々にしてもらえる金額の見積もりが低いので年金に対する信頼が損なわれることが多く逆効果と思われます。
- ・「自分事」にしやすいが、そんなに上手くいくのかな～…?!（現行の年金制度が維持されるのかな～?!）というのが感想です。

アンケートの集計結果及び分析



8. 社会保障教育を含めた公民科に関する教材について、「課題」と感じている内容をすべて選択してください。選択肢以外で該当する内容があれば、「その他」の欄を選択し、ご記入ください。

● 教材数が多く、教育現場で扱いきれない。	16
● 教材数が多く、どのような教材があるのかわからない。	9
● 教材の内容と、授業者のニーズが合っていない（授業者が望むような教材がない）。	13
● 教材の内容と、教育現場の現状に「ずれ」がある（教材のレベル、モデル授業における設定など）。	16
● その他	4



【集計結果の分析】

- ・教材の多さ（それによる飽和状態）、教材の内容と教育現場の「ずれ」に対して約半数が課題を感じていると回答した（※教材に対する課題については次スライド参照）。
- ・「その他」では、“大学入試で問われているものと、実際の生活で必要になるものとの間に差があり、生徒の学習意欲を保たせることが難しい。”、“国債発行額の増大がリスクであることを生徒に理解させることが難しい。教材で使える事例がない。教材そのものがない。”との意見が寄せられた。

Ⅰ アンケートの集計結果及び分析



【「教材」への意見や要望】

- ・多様な学校現場があり、多様な生徒がいる現在の学校現場において、パッケージ化された教材は使いにくいことが多い。**教材やワークが一部分だけ切り取っても授業で使えるようになっていると活用の幅が広がるのではないか。**
- ・**1時間の単発で考えられるもの**があると使いやすい。知識事項も踏まえながら教えると時間がどうしても足りない。
- ・作成している団体によって、内容に偏りがあり、かいつまんでいくつかの教材を用いなければならないのが負担。内容が複雑で難しい。読むだけの資料になっている（**取り組みながら理解するような教材が少ない**）。
- ・**国債発行額の増大がリスクであることを生徒に理解させられる教材**が欲しい。
- ・**5分単位10分単位で扱える教材**があると使いやすいです。
- ・社会保障の内容が医療や年金など、高齢者支援になっており、**若者に対する支援について触れられていない**。また、社会制度面に偏っており、実際の社会保障行政や福祉施設などの実態について、触れられていない。
- ・様々な教材が一元化されると良い。というか、資料集に盛り込まれると良い。**資料集との重複が多い**。
- ・生徒に対してはいろいろ提示してあげたいが、**全体の時間数が不足している**。
- ・特定の方のお仕事のために作成されるものであって、**現場で扱う教材とは乖離しているもの**と理解している。

Ⅰ アンケートの集計結果及び分析



【年金制度に関する「広報」に対する意見、要望】

- ・海外との比較、海外からの情報が足りないと感じます。
- ・ワンストップ（このサイトを見れば一括して情報が載っている）のしくみをぜひ構築してほしい。多すぎて現状は把握しきれず、コストが高いため、結果的に外部とは連携しないという選択をとっていることが多い。
- ・年金制度を維持するために国民の負担は必要だが、その負担の重要性がどうすれば生徒に伝わるのか。
- ・一時に比べて少ない印象があります。年金に対する不安が再びクローズアップされると制度が持たなくなるのではないかと想定されます。
- ・厚生労働省の政策統括室が作成する教材と連携を深めてほしい。社会保障教育は年金と医療の両方が大切であり、トータルで見る必要がある。年金広報のみ充実させることは、そのバランスを崩すことになり、全体としてのシステムが見えずらくなる。その点の配慮をお願いします。

Ⅰ アンケートの集計結果及び分析



【(参考) 出前授業に対する意見、要望①】

- ・出前授業は非常にありがたいが、生徒のニーズと合っていないことも多い(講師がただ話すだけや生徒のレベルと合っていない)。本来であればこのようなミスマッチをなくすために打ち合わせを十分にすべきであるが、そういった時間も取れないことが多い。この点の改善に向けて、学校側もニーズを詳細に伝えること、講師も学校に合わせた講演内容の設定、そして打ち合わせ回数の増加など双方の歩み寄りが必要ではないかと感じている。
- ・出前授業は専門的な内容を学べるので、とてもありがたいです。一方で、一方通行的な授業や生徒の理解レベルを把握できていない授業なども散見されるため、打ち合わせを念入りにして各学校に合わせた出前授業が必要だと思います。
- ・外部の方が専門的な面から話をしてくれるのは非常に助かりますが、やはり授業の形式に慣れていないので、生徒が退屈に感じてしまうことが多い。話すのが得意な方が来てくれることが時折あり、その際は非常に助かります。
- ・生命保険会社などの民間団体が出前授業を行う例も少なくないが、公教育を使った利益誘導そのものではないかとの疑念がぬぐえない。公的機関が行っているものがそちらに埋もれている現状さえある。

Ⅰ アンケートの集計結果及び分析



【(参考) 出前授業に対する意見、要望②】

- ・大変ありがたい。本校での政治経済の授業で1学期に3つの団体に授業をしていただいた。しかしこちらの意図をしっかりと汲み取ってくれる授業でないと、普段の授業との関連が薄れてしまい学習効果が減退してしまう。やはり事前の打ち合わせが非常に重要であり、授業者の意図をしっかりと伝えることと、それを汲み取る姿勢が重要だと感じる。
- ・公的機関が出前授業をすることは、基本的には良いと考えている。ただ、組織のアピールになってしまうと、あまりよくないと思う。また、民間団体は、出身母体との関係で中立性が疑われる場合もあるが、バランスよく内容を取り入れて出前授業を実施してもらえればよいと思う。
- ・公共の授業以外で、別の教科の教員が企画して、学年行事などで民間保険や確定拠出型年金についての出前授業や講演会を行うことがあり、そちらに任せればよいのかな、と思うことがある。
- ・個人的には歓迎ですが、現任校や前任校は朝・昼・夜の「三部制」であり、「公共」「政治・経済」も複数の教員で分け持つ体制なので、このような体制の学校においても、どの生徒にも公平に授業が実施されることを前提にご検討ご提案いただける団体様があると助かります。

Ⅰ アンケートの集計結果及び分析



【(参考) 出前授業に対する意見、要望③】

- ・出前授業はわかりやすいが面白くなく、生徒が寝てしまう場合があるので呼ぶことをためらうことがある。
- ・3年生を対象に卒業前の授業で年金事務所の方に来校の上、出前授業を1コマ実施している。生徒の反応も良いし、内容も分かりやすい。
- ・学習指導要領をベースに、教科書の内容を補完してくれる内容であれば授業者として助かります。変に専門的な内容にしたり、特定の分野に特化すると、かえって限られた授業時数なので外部機関を呼びづらくなると思います。
- ・調整が面倒である。内容が薄いことも間々ある。
- ・出前授業を管理職経由で依頼されることもあるが、授業担当者としては困っている。実際の授業とは大きくかけ離れている専門的な内容や学力レベルとは乖離した内容など、色々断られて私たちレベルの学校まで来たのか…というのが正直な感想である。

Ⅰ アンケートの集計結果及び分析



【(参考) 出前授業に対する意見、要望④】

- ・外部機関連携による出前授業の教育効果は極めて高いものだと思います。積極的に活用したいのですが、2つの壁があると考えます。第1の壁はスケジュールです。こちらが望む時期に出前に来ていただかず、単元の学習前もしくは学習後相当の時間が開いた後にしかスケジュールが組めない、という壁です。もう一つの壁は内容の壁です。例えば「〇〇の点について、複数の見方、視点を提示してほしい」というのに、専門的な中身や外部機関のPR的な内容に終始し、こちらが求むべきニーズに合っていないというのがあります。この2つの壁があるため、出前授業に躊躇するという面が20年以上続いています。願わくば、もう少し学校の要望に100%でなくてもいいから応じてほしい、と感じます。

2 アンケート結果に基づく考察



- ① 公民科の年金教育は制度や今後の見通しが今なお中心であり、個人で備えを考える時間がない点が課題となっている。
 - ・ 公民科は家庭科で扱うと認識しているが、家庭科は家庭科で扱う時間的な余裕や専門的知識がない。
 - ・ 年金を扱う際の知識不足と情報入手も課題となっている。
- ② 教材に対しては、教材が飽和状態であること、教材と現場のニーズが乖離していることが課題となっている。
 - ・ 「50分授業」すべてを割ける程の時間的な余裕はなく、短時間で扱える汎用性の高い教材が求められている。
 - ・ 各関係団体間で教材を統一したり、内容を教科書や副教材も踏まえて精査する必要がある。
- ③ 外部機関による出前授業も、現場のニーズに合っていない事象が生じるが故に敬遠される事態にもつながっている。
 - ・ 学校との事前打ち合わせにより、相互理解を深めることが重要。
 - ・ “専門機関だからこそできること”を考える必要がある。